津久井広域道路整備事業に伴う発掘成果速報！

# 相模原市津久井城跡

## （相模原市城山町No.8遺跡）

## 約3万年前の石器が出土！

### 津久井城跡の発掘調査

相模原市城山町に所在する津久井城跡は、津久井土木事務所･国土交通省による津久井広域道路整備事業に伴う埋蔵文化財の記録保存として、財団法人かながわ考古学財団が発掘調査を実施しています。

津久井城は、標高 375mの城山一帯に築かれた戦国時代の山城です。今回の調査地点は城山南東の裾部にあたる県道に沿った緩斜面部で、「馬場」･「家臣屋敷」の伝承地となっています。

これまでの調査で、旧石器・縄文・弥生・古代～中世・近世など各時代の遺構や遺物が発見されています。

なかでも関東ローム層からは、旧石器時代の３万年を越えるような古い石器が多数出土していることは特筆されます。

今回発見された遺構や遺物などは、今後の出土品整理や分析などを経て発掘調査報告書として刊行し、正式に公開されます。

これら先人達の足跡を、郷土相模原の歴史を探る資料として、活用して頂ければ幸いです。

財団法人 かながわ考古学財団

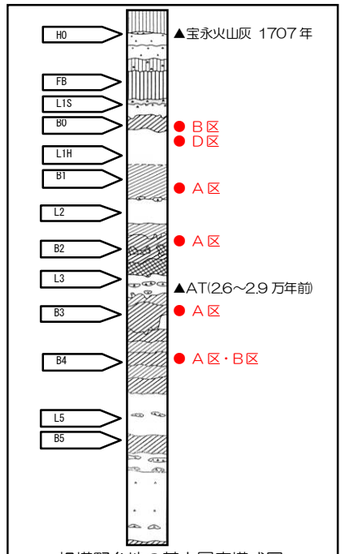
調査区空中写真（東から）

A 区石器集中地点

A 区石器集中地点

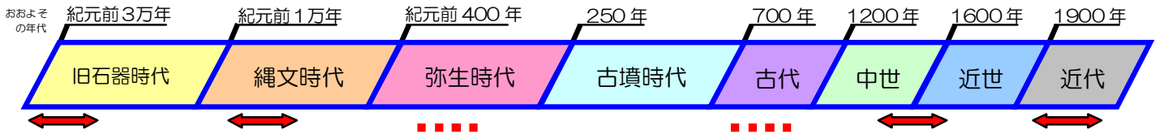
A 区石器出土状況

A 区石器出土状況（水晶）




相模野台地の基本層序模式図
（綾瀬市史５ 通史編 原始･古代を改変）

今回の調査では、関東ローム層と呼ばれる赤土の中から旧石器時代の石器がおよそ 1500 点余り発見されました。ローム層下約３mに達する地層からは、３万年以前の石器製作址と捉えられる石器の集中地点が確認されたことは特筆されます。近隣の河床から採取される凝灰岩やホルンフェルスと呼ばれる石に加工を施し、局部磨製石斧という斧状の石器などが製作されていたと考えられます。



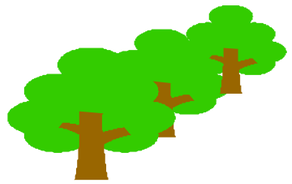

※矢印と点線は、今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示しています。

周辺には、国指定史跡川尻石器時代遺跡や縄文時代中期の大集落である川尻中村遺跡、代官守屋左太夫陣屋跡など各時代の著名な遺跡が多数所在します。

今回の調査成果は、戦国時代の山城である津久井城に関する内容に加えて旧石器から江戸時代まで多岐にわたるもので、全体像を総合的に捉えていく必要があります。

遺構の形や遺物出土地点の測量を行いながら調査を進めます。

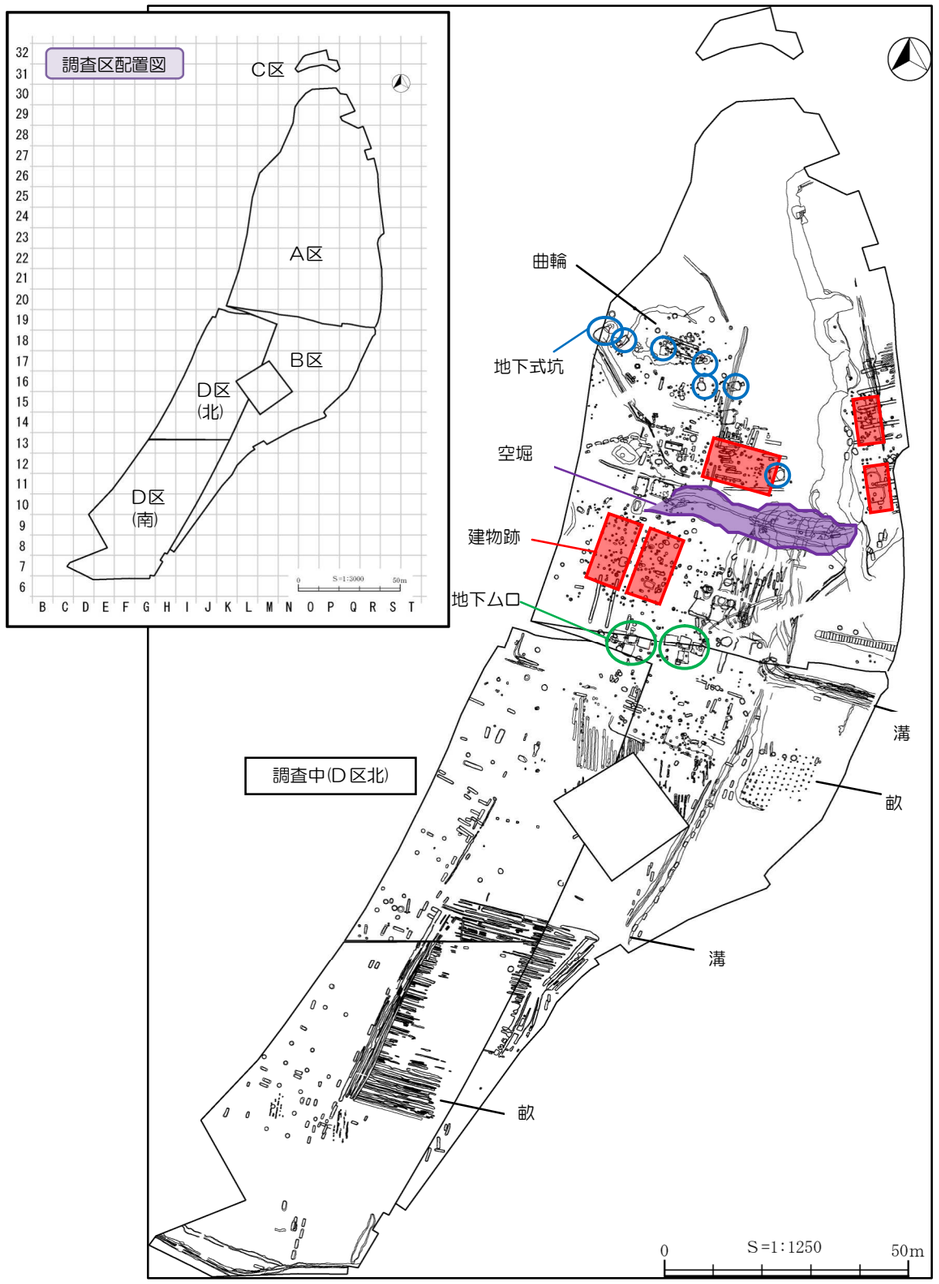
遺構等は土層観察帯を設定し、地層の堆積状況を記録します。



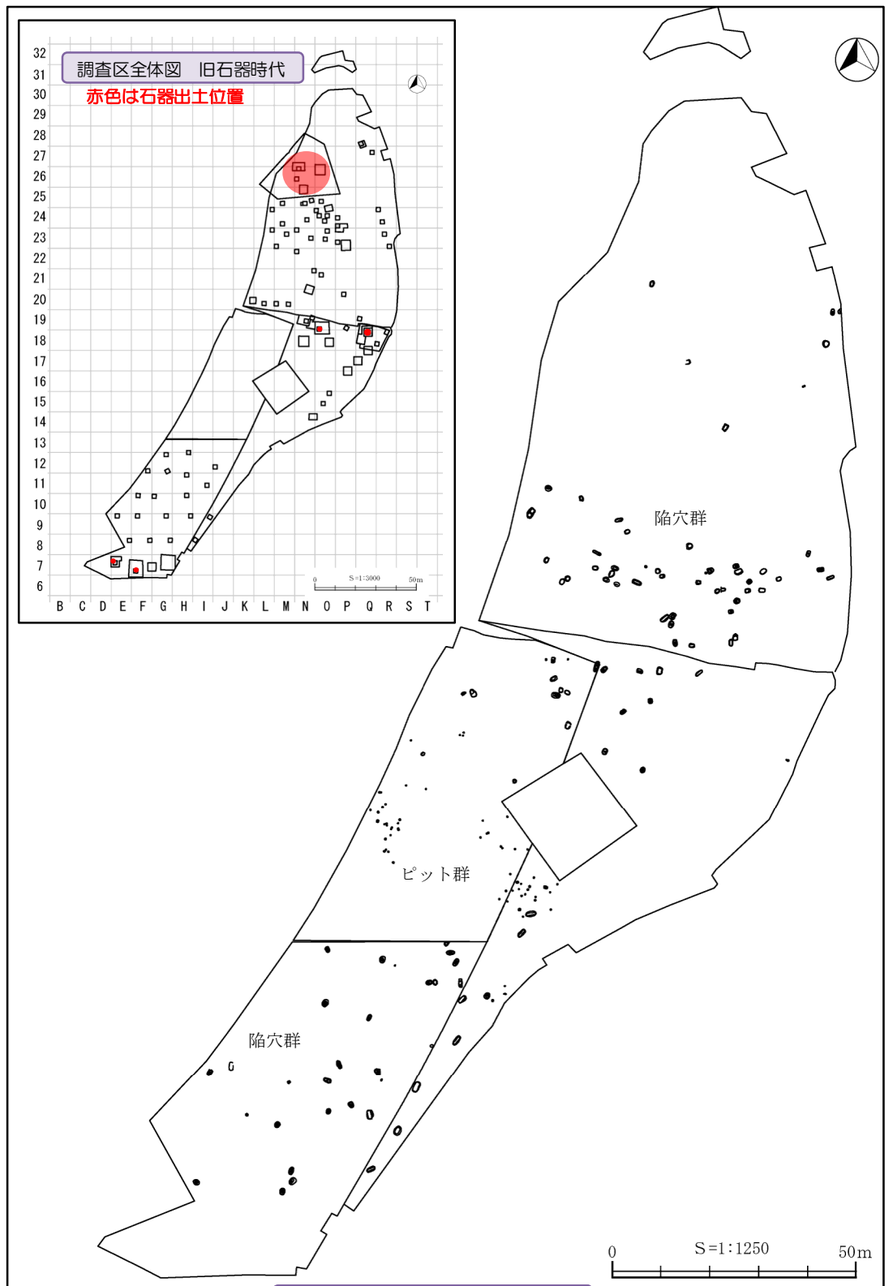
測量・記録作業

写真撮影


津久井広域道路整備事業の発掘成果速報
相模原市城山町 津久井城跡
2007.9.8
財団法人 かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1
TEL 045-252-8689 http://kaf.or.jp/




調査区全体図　中世～近世以降




調査区全体図　縄文時代～弥生時代

## 発掘調査の概要

**◇遺 跡 名**　津久井城跡（相模原市城山町№8）
馬場･家臣屋敷伝承地

**◇所 在 地**　相模原市城山町小倉字馬込

**◇調査期間**　2006年2月～2007年10月(計画)

**◇調査面積**　16,940㎡（対象）

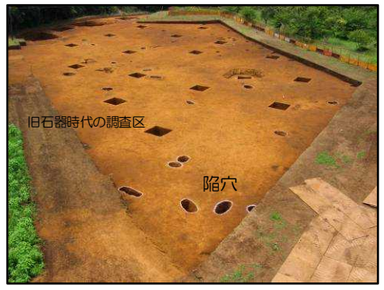
**◇発見遺構**　(2007年8月末日現在)

| | |
|---|---|
| 旧石器時代 | 石器集中(ブロック)5 |
| 縄文時代 | 集石9･陥穴59･ピット5 |
| 弥生時代 | 土坑5･ピット17 など |
| 古代～中世 | 土坑11･地下式坑7･空堀1 |
| 近世以降 | 溝27･土坑229･ピット724･竪穴状遺構6基･地下ムロ2･石垣･階段状遺構 など |

**◇出土遺物**

| | |
|---|---|
| 旧石器時代 | ナイフ形石器･楔形石器･局部磨製石斧･剥片･台石(約1,500点) |
| 縄文時代 | 早期(条痕文系)･前期(関山式・諸磯b式)･中期(勝坂式･加曽利E式･曽利式)･後期土器・石器(尖頭器･石鏃･打製石斧･磨製石斧･磨石･石皿)など |
| 古代 | 土師器･須恵器など |
| 中世～近世 | 陶器･磁器･銅製品(古銭･煙管) |

**◇特徴**　調査区は城山南東側の標高 150m前後の緩斜面にあたります。旧石器時代の遺物は主に北東端部の斜面であるＡ区から出土しています。縄文時代の陥坑は、Ａ区南側では谷戸部の谷底やＤ区南部の緩斜面部で多く発見されています。戦国時代の遺構は空堀や地下式坑など Ａ 区の北側を主体に発見されています。中世以降、屋敷地が作られていたと考えられる平場などは、建物や畑地など近世以降から現代に至るまで継続して土地が利用されてきたことが判ります。




Ｄ区南側の完掘状況(縄文時代の陥穴群)

陥穴(底面には逆木などを据えた穴があります。)

**縄文時代の陥穴**（写真左）

平面は楕円形や長方形などです。底の穴は底面ピットと呼び、逆木などで獲物の動きを弱めるものです。ピットは単独のものや複数掘られるものなど各種が認められます。

**江戸時代の地下ムロ**（写真右）

地下室で、斜めに潜るよう開けられた径 50cm の丸い穴は入り口で中央の部屋に通じています。さらに中央から三方向に部屋が作られ、小さなトンネルで繋がっています。貯蔵庫などとしての利用が考えられます。

地下ムロ(安全のため天井部は削平してあります。)